

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-132 C-11C	23-082	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Maternal Prenatal Use of Alcohol, Tobacco, and Illicit Drugs and Associations with Childhood Cancer Subtypes 母親の出生前の飲酒、喫煙、違法薬物使用と小児がんサブタイプとの関連		
執筆者		
Wimberly CE, Gulrajani NB, Russ JB, Landi D, Wiemels JL, Towry L, Wiencke JK, Walsh KM.		
掲載誌		
Cancer Epidemiol Biomarkers Prev. 2024 Mar 1;33(3):347-354. doi: 10.1158/1055-9965.EPI-23-1027.		
キーワード	PMID	
小児がんサブタイプ、飲酒、喫煙、違法薬物	38112788	
要旨		
<p>目的: 妊娠中の飲酒、薬物使用/乱用と小児がんリスクとの関連を検討した。</p> <p>方法: 小児がん患者の親を対象に、妊娠中の飲酒、喫煙、違法薬物の使用、児の出生体重、妊娠期間、人口統計学的要因などを調査した。多変量対数ポアソン回帰により、出生体重、妊娠期間、人口統計学的要因を調整し、妊娠中の飲酒、喫煙、違法薬物の使用頻度と 15 の小児がんサブタイプとの関連を検討した。</p> <p>結果: 3,145 家族から回答を得た (92%が実母)。そのうち、妊娠中の喫煙は 14%、マリファナやコカインなどの違法薬物の使用は 4%、適量以上の飲酒は 2%に認めた。妊娠中の違法薬物使用は、髄芽腫、テント上原始神経外胚葉性腫瘍 (PNET)を含む頭蓋内胎児性腫瘍、および網膜芽細胞腫の有病リスクと正に関連した。また、中等度から多量飲酒は、非ホジキンリンパ腫の有病リスクと正に強く関連した。一方、妊娠中の喫煙は、小児がんのどのサブタイプとも関連がなかった。</p> <p>結論: 妊娠中の違法薬物使用は、髄芽腫、テント上 PNET、網膜芽細胞腫などの非神経膠腫中枢神経系腫瘍の有病リスクと正に関連した。また、妊娠中の飲酒曝露は、非ホジキンリンパ腫と正の関連を認めた。</p>		